

園名

二葉つぼみ保育園



テーマ

ボール

設定の理由

園目標の一つである「よく考える子ども」に向けて、子どもの思考の育ちと環境・保育者の援助について、0歳児から身近にあるボールをテーマにしてボールの動きや感触、環境や保育者の援助等から探っていく。ボールは、0歳児から身近にある遊具で手に触れる機会が多い。ボールは転がしたり、投げたり、握ったりと変化に富んでいる。乳幼児期にはボールの動きによって自然と体が動き、触れたり、試したりしている。その姿から子どもたちの興味や関心を読み取り、一緒に遊びながら環境や保育者の援助について探り、好奇心と探究心(わくわく)を育むことができるのではないかと考えた。

対象年齢

3歳児

活動事例①

ねらい カップを組み立てボールが転がる様子を楽しむ

活動のねらい

- ・ボールが転がる様子を見たり、カップにボールを入れりすることを楽しむ。
- ・紙コップにボールを入れてボールを転がしたり、転がったボールが紙コップに入る様子を見たりする。

環境の設定

- ・カラーボールが入るくらいの大きさの穴の開いた紙コップを作った
- ・子どもが自由に動かせるように紙コップ養生にテープを貼った。廊下の壁に 9~1個程紙コップを貼り、4つの異なるコースを設定した
- ・直径5、5cmのポリエチレン素材のカラーボールを 40 個用意した

探究活動



友達がボールを転がして遊んでいるのを見て、ボールをカゴから取り紙コップの穴にボールを入れる。ボールが転がる様子を見て、保育者に転がったことを知らせていた。



保育者や友達がゴールの紙コップの位置を変える様子を見て、カップを移動させ、ボールが出てくる先に紙コップを貼る。ボールが入らないと再度紙コップを移動させ、ボールが入ると保育者に知らせていた。ボールが転がったことや、カップにボールが入ったことの喜びに共感されると、繰り返し遊んでいた。

保育者の振り返りと気づき

- ・いくつか形の違うコースがあることで、ボールの転がり方を楽しむ姿が見られた。
- ・紙コップを繋げることで、階段のようにボールが落ちていく様子を見て楽しんでいた。
- ・最後にゴールとなるカップを置くことで、転がる様子だけでなく、カップに入った喜びを感じる姿が見られた。
- ・紙コップを養生テープで止めることで、自分で張り替えてコースを変えて遊ぶことができていた。

活動事例②

ねらい ボールが転がる様子を見たり、繰り返し遊んだりすることを楽しむ

活動のねらい

- ・カップに向かってボールを転がしたりカップにボールを入れたりすることを楽しむ
- ・机の上でボールを転がし転がる様子を見たりカップにボールを入れて遊んだりする

環境の設定

- ・机の両サイドに段ボールを貼り、向かいの机の縁に透明なカップを付けた
- ・直径5、5cmのポリエチレン素材のプラスチックのボールを十分な量用意した
- ・部屋の中に机を二台用意した

探究活動



友達がボールを転がし始めるのを見て、自分でボールをカゴから取り出し転がして遊んでいた。ボールがカップに入らないのを見ると、再度ボールを転がし、カップに入ると喜び保育者に知らせていた。カップに入った時のボールの様子を見ていて、次になげるときにコースを意識している姿があった。



自分の次にボールを転がす友達が、複数ボールを持ち転がしている様子を見て、3つのボールを腕に抱え、ボールの動きを目で追いながら、1つずつボールを転がしていた。また、ボールが途中で止まってしまうのを見て、少し力を入れて早く転がそうとしたり、カップを見ながら転がしたりと繰り返し遊んでいた。

保育者の振り返りと気づき

- ・保育室内に設定をしたことで、遊んでいる様子を見ることができ、興味をもち遊び始めることができていた。
- ・十分なボールが用意されていることで、複数ボールを持ち転がすなど自分なりにボールを繰り返し転がし遊ぶことができていた。
- ・プラスチックのボールはスピードもでてしまい、うまくボールが入らないこともあったため、他の種類のボール(手作りの物など)もあっても良かった。

活動事例③

ねらい ボールを投げたり、ゴールに入れたりすることを楽しむ

活動のねらい

- ・ゴールに向かってボールを投げたり、自分なりにボールを投げたりすることを楽しむ。
- ・自分でボールを選んだり、上手投げ、下投げなどでボールを投げようとしていたりして試そうとする。
- ・友達や保育者と一緒にボールを投げて遊ぶ。

環境の設定

- ・牛乳パックで作ったゴールを、高さを変えて5つ設定した。
- ・ゴールに透明なビニール袋を付けた。(底が抜けたもの、抜けていないもの)
- ・ゴールのイラストの後ろには跳ね返し軽減のため、緩衝材を付けた。
- ・プラスチックやウレタン、手作りボールなどボールを十分な量用意をした。

探究活動



素材の違うボールを自分で選び投げたり、ゴールとの距離を変えながら、ボールを繰り返し投げたりして遊んでいた。

一度に複数のボールを抱え一斉に投げたり、確実にボールを入れようと1つずつ丁寧に投げたりして、どの方法が入りやすいか試していた。



ボールが袋に入ると嬉しそうに保育者に知らせ、袋がたくさんになるまで、ボールを投げて遊んでいた。袋がいっぱいになると「数えて」と言い、保育者と一緒に数え、数え終わるとたくさん入ったことを喜んでいた。

保育者の振り返りと気づき

- ・ボールが複数あったことで、自分なりにボールを選び投げて遊ぶ姿が見られた。また、袋があったことで、ボールが溜まることを楽しんでいた。
- ・今回ゴールに袋が溜まることで、ゴールが外れてしまうことがあったが、複数ゴールが設定されていることで遊びが継続することができた。また、袋にボールが溜まると重みで外れてしまうなどハプニングから気づくこともあった。
- ・ボールの色や特性について子どもたちが気づくような声掛けをしていく。また、動物のイラストによって、ゴールや袋の大きさを変えてみると良いと感じ、さらに環境を整えて、子どもたちの「やってみたい！」に繋げていく。